

# 令和元年度 社会福祉法人 博仁会 事業報告

## 1. 総括

今年度は平成から令和へと年号が改められ、働き方改革関連法案の施行や消費税の引き上げなど社会情勢が目まぐるしく変化した年でした。また年度末から今日に至るまで続いている新型コロナウイルスの影響は、施設内での面会の制限や通所介護事業の休業、マスクやアルコール消毒液などの衛生用品の不足等をもたらしており、これまで経験した事がない状況が起こっている。こうした予期せぬ事態に対して、三事業のサービスが中断しないように各部署及びユニットが協力し合い、施設全体での連携に至った事は苦しい中での良い経験であり、サービスを継続させる上での人材の重要性、組織の成熟度が浮き彫りになりました。

人材に関しては、ここ数年確保が難しくなっています。今年、新卒者を2名採用できたものの、退職等による職員の補充が追いつかず、紹介派遣会社へ採用を頼らざるをえない状況であった。周辺地域介護施設の新設や介護養成学校の定員割れも続いており、採用状況は非常に困難であるが、そうした中でも人材確保に苦勞していない法人がある事から、法人としての魅力、労働環境、職員のモチベーションなど当法人に対して要因があることを真摯に受け止める必要がある。今いる職員の働きやすさ、仕事に対するモチベーションの高さが人材確保にも繋がる事を念頭入れ、採用枠においても高齢者や障がい者、外国人の雇用など多様な職員が働ける体制を次年度から積極的に築かなければならない。

また一方で、現在は介護サービスの質を高める努力以上に、安定的な経営基盤づくりを事業運営の柱におこななければならない状況である。利用者・入所者のニーズに沿ったケアの改善、職員の手厚い配置などサービスの質の向上に向けて取り組みたいが、採算が合わず断念せざる場面が多々ある。特定処遇改善加算の導入によって、介護職員以外の職員にも配当できる状況となったが、基本的な介護報酬単価の増加が期待できない状況では、昇給や施設改修費用などの財源確保は容易ではない。業務内容を簡素化し、常勤者から非常勤者への配置換えや時間外労働の削減など経営的な視点において抜本的な改革が求められている。

最後に、法人としての公益的な取り組みが徐々に地域住民や関係機関に認識されてきました。認知症に対する啓発活動や地域カフェ、ふれあいサロンへの職員派遣などこれまでどおりの取り組みは継続し、そこに法人の多くの職員が関わることで、地域福祉に対する役割、高齢者介護に携わる専門職としての意識の醸成を図っていきたいと思います。

## 2. 運営状況（介護保険収入・稼働率）

	全体	特養（入所）	短期入所	通所介護（299日）
利用者定員	—	72名	15名	40名
利用者延べ数	—	25,197名	4,692名	9,970名

一日平均利用者数	—	68.8名	12.8名	33.3名
稼働率 (%)	—	95.6%	85.5%	81.2%
平均要介護度	—	3.9	2.7	1.6
単価 (一人一日当たり)	—	14,502円	13,473円	8,506円
収入	515,948,863円	367,922,519円	63,219,385円	84,806,901円
予算との達成率	101.7	103.0%	103.6%	95.0%
支出 (人件費)	340,024,921円	241,205,041円	39,087,748円	59,652,132円
人件費率	65.9%	65.6%	61.8%	70.3%

【参考】全国平均と比較した令和元年度の予算及び決算値

		リハモール福岡 (特養+短期)		ユニット型施設 参考値	
		令和元年度予算	令和元年度決算		
利用率		94.5%	93.9%	94.4%	
平均要介護度	特養入所	3.9	3.9	3.88	
	短期入所	2.5	2.7	3.01	
入所10人当 たりの従事者数	介護職員	5.4名	5.10名	5.37名	
	看護職員	0.84名	0.91名	0.65名	
	介護支援専門員	0.13名	0.12名	0.19名	
	その他	1.89名	1.82名	1.66名	
	合計	8.26名	7.95名	7.87名	
収 支 の 状 況 ( 構 成 比)	収 益	介護保険収益	75.1%	74.6%	75.9%
		利用者等利用料収益	24.8%	24.5%	23.9%
		その他	0.1%	0.2%	0.2%
	費 用	人件費	66.1%	65.1%	61.9%
		経費	20.9%	19.6%	24.6%
		事業費	15.5%	14.7%	16.0%
		(うち給食費)	(5.4) %	(5.8) %	(5.8) %
		事務費	5.2%	4.9%	8.6%
		減価償却費	9.1%	8.8%	7.5%
		その他	0%	0%	0.1%
計	96.1%	94.1%	94.5%		
サービス活動収益対経常増減差額費率		3.0%	8.8%	5.8%	

ユニット型施設参考値 (平均) …WAMネット 経営分析参考指標 (平成29年度決算分) より

### 3. 各部署の行動計画

#### 生活支援課（介護老人福祉施設、短期入所生活介護）

##### 【移乗動作の向上】

腰痛予防の取組みとして、2ユニットに1台の介助用リフトを導入した。認知症の進行や障害、高齢化によって協力動作が得られない入所者への移乗介助は、職員にとって非常に負担が高い状況である。介護用リフトの適切な使用方法について3回の講習を実施し、またその他の福祉用具を使用した「抱えない介護」の移乗介助技術のスキルアップを目指した。職員の腰痛が無くなるまでは至らないが、「抱えない介護」の意識や技術が広がりつつある。

##### 【働きやすい職場環境づくり】

人事考課と連動して、年2回の職員面談を実施した。面談にて各職員の考えや情報（ハラスメント・職業意欲・不安・人事など）を聞き取り、働きやすい職場環境づくりを目指した。面談では、働きやすい職場と返答する職員が多くいた。職員間及び上司部下のコミュニケーションが円滑になる事は経営の安定に繋がる要素である為、今後も取り組んでいきたい。

##### 【新就職者の離職防止】

今年の新入職者4名に対して、新人研修を行った。これまで医療法人と合同で行っていた新人研修を単独で実施する事となり、研修指導する職員の負担は増すことになってしまったが、受講する側としては病院と施設の事柄を混乱せずに学べる為、今後も引き続き単独開催で行っていききたい。また職員の不安や成長の度合いを把握するため、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年の定期面談を実施した。疲れや不安になりやすい時期で面談を実施する事で、職員の心のケアをする事ができ、4名とも退職することなく継続雇用できている。

#### 生活支援課（通所介護）

##### 【利用人数の増加】

体験者数の合計は29名、その内契約に至ったケースは22名であった。体験者数は例年とほぼ同数の状況。既存利用者への利用回数増の提案を試み、17名の利用者に対して全体で月に19日の日数増加となった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計
体験	2名	2名	4名	7名	1名	3名	19名
契約	2名	1名	2名	6名	1名	2名	14名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計
体験	2名	1名	5名	1名	1名	なし	10
契約	1名	1名	4名	1名	1名	なし	8

##### 【通所介護の活動状況】

#### ○外出行事

利用者の行きたい場所、買い物したいお店等、利用者の希望に合わせて事前にアンケートを実施し外出を行った。普段は行きにくい場所でも安心して外出できるので参加された方々は大変満足されたようであった。

内容	日付	参加数
伊都菜彩	4/1 ～ 4/13	35名
マリナタウン・木の葉モールなど	6/3 ～ 7/31	57名
とうふ屋 酒瀬川	8/26 ～ 8/31	54名
コスモス見学・麦の木	10/14 ～ 11/2	64名
やよい軒	11/18 ～ 11/23	62名
初詣	1/20 ～ 1/25	53名
大漁市場 こんぴら丸	2/17 ～ 2/22	60名

### ○サークル活動

3団体の新たなボランティアとの繋がりができ、年に2～3回程度定期的に訪問していただけるようになった。事業所内で行うレクリエーション活動でもレクササイズやカーリングなど新しく試み、マンネリにならないように工夫していった。

内容	日付	参加数
お話しサークル	毎月1回	毎回10名
太極拳	毎月1回	毎回15名
手芸サークル 眼鏡ケース・ポーチ	5月	52名
貼り絵 (猫の旅 鎌倉)	7月	51名
LED あかりアート	10月	37名
羽子板	12月	48名
生花サークル	毎月	毎回10名

### 【介護老人福祉施設の活動状況】

#### ○外出行事

内容	日付	参加数
買い物ツアー (伊都イオン)	毎月1回	平均2.5名
野球観戦 (ヤフオクドーム)	8月12日	4名
老施協 運動会	10月18日	4名
老施協 高齢者作品展	11月15日	4名

#### ○サークル活動

お歌サークル 月に1回 4名のボランティアにお手伝い頂いている

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 14.6名
19名	14名	10名	13名	17名	14名	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
18名	13名	18名	12名	中止	中止	

#### フラワーアレンジメント 月に1回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 25.2名
26名	27名	25名	25名	24名	22名	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
24名	26名	27名	26名	中止	中止	

#### 絵手紙 月に1回 11月の作品は壱岐校区の文化祭へ出展

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 13.2名
14名	13名	12名	11名	14名	13名	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
14名	14名	12名	15名	中止	中止	

#### 陶芸教室 2月に1回

5月	7月	9月	11月	1月	3月	平均 13.0名
15名	—	12名	11名	14名	中止	

#### 書道教室 月に1回 11月の作品は壱岐校区の文化祭へ出展

4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均 14.2名
18名	14名	13名	17名	13名	12名	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
15名	13名	13名	14名	中止	中止	

### 健康管理課

#### 【入居者医療情報の整理の標準化】

看護活動に必要な情報の収集及び共有化を図るために、介護ソフトを活用し入所者の既往歴・検査結果・内服情報等を多職種が容易に閲覧出来ることを目指した。看護職員が必要とする情報を他職種が知る事で、医療と介護の連携にも繋げることが出来た。検査結果や内服情報は変更が多く、最新情報への更新が難しい事から基礎データの作成には至らなかったが、別の項目として食事形態を閲覧出来るようにした事で、施設サービス計画書の見直しに

も役立てられるようになった。また、これまで紙媒体で行っていたものが介護ソフトへ入力する事となり、来年度から始まる紙ごみの分別化に向けてのペーパーレス化を実現する事が出来た。

## 栄養課

### 【「安心」「安全」な食事サービスの提供】

年度始めに部署内でインシデント・アクシデントの研修を実施し、調理職員の意識付けを図り件数の減少を目指した。調理によるインシデント・アクシデント報告件数は異物混入の4件で例年とほぼ同数であるが、厨房内での確認しか報告されておらず食事提供時の発見は報告されていない可能性があることが判明した。その為、これまでの施設全体の事故対策に栄養課職員も参加し、食事提供全般のインシデント・アクシデントの確認（異物混入、誤嚥など）を行っていく。

新しい食形態としてハーフ食の導入を行った。障害者や高齢化により定量数の食事が食べられず、栄養状態の悪化が懸念される為に、少ない量でも同じ栄養を摂取できるハーフ食の導入を図った。食事の提供量が少ない分、食事介助に要する時間も短縮する為に二次的な効果も得られた。

### 【施設サービス利用率の向上】

食事に関しての情報発信として、秋祭りでのご家族への提供は出来ているものの、定期的なホームページの掲載には至らなかった。何かイベントがないと発信する機会がない為、今後検討していく予定。

### 【災害時に有用な対策の確立】

災害時の食事提供マニュアルを作成した。マニュアルには初期対応フローチャートを掲載し、二次災害に繋がらない為の厨房機器消し忘れの確認表や災害レベル（水道が使えない、ガスが使えない、電気が使えない、すべて使えない場合）に合わせて行動できるようにマニュアルを作成した。今後、1年毎に見直しを行っていく予定。

## 事務課

### 【施設整備の維持・管理】

業務委託していた清掃業者の見直しを行い別の委託先へ変更となった。これを機会に施設職員と委託業者の清掃範囲を見直し、委託料の大幅な変更はなく、各ユニットのリビングやトイレなどの清掃回数を増やす事が出来た。一昨年より委託業者の見直しをする事で好条件に変更出来たケースが多い為、今後も引き続き行っていく。

機器の更新・修理として、クックチルには欠かせない厨房機器のブラストチラー（食材を瞬間冷凍する機器）の更新や Windows7 のサポート終了に伴い、施設全体のおよそ3分の1

にあたる 10 台のパソコンの入れ替えを行った。来年度も予算計上し、残りのパソコンも徐々に入れ替えていく予定。

#### **【新しい人事考課の運用と見直し】**

管理職を目指すルート、専門職を目指すルートの二つのキャリアパスをもとに作成した人事考課表を見直し、これまで年 1 回の実施から年 2 回の実施に向けて検討していった。

評価を付け易いように具体的な項目を作成しているものの、評価者の基準が一定でない場合もあり今後の課題として引き続き見直していく。

#### **【集客と雇用促進に向けた自社 PR】**

施設利用向けのパンフレット以外に、職員採用向けのパンフレット作成を行った。ライターからの聞き取りやカメラマンによる撮影などの取材は、職員にとって仕事に対する姿勢や福祉・介護を目指したきっかけなど職員自身の振り返える良い機会となった。それは単にパンフレット作成に留まらず、職員の成長にも繋がったようであった。またホームページに掲載している「暮らし・活動」「お知らせ」の内容を定期的に新しいものにしていく事で、施設の様子や雰囲気、活動など発信する事が出来た。

## 事業報告の付属明細書

令和元年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の付属明細書は作成していません。

社会福祉法人 博仁会  
理事長 原 道也